



令和3年10月19日

報道関係者 各位

アジア宗教者平和会議 (ACRP/RfP Asia)
世界宗教者平和会議 (WCRP/RfP) 日本委員会

第9回アジア宗教者平和会議(ACRP／RfP Asia)東京大会 開幕

第9回アジア宗教者平和会議(ACRP/RfP Asia)東京大会が10月19日、開幕しました。今回は日本で開かれる初めての大会となりますが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、立正佼成会の法輪閣(東京・杉並区)を拠点にオンラインで開催されます。21カ国・地域から正式代表約120人を含む約300人が参加。『行動するアジアの宗教コミュニティ：誰一人取り残さない、健やかで豊かなアジアの平和をめざして』をメインテーマに、22日までの会期中、ビジネス会議を含む5つの全体会議が行われるほか、『平和と人間の尊厳の教育』『弱い立場の人々の人権と幸福』『社会の共存と調和のための和解』『多様化する社会における開発と環境』のテーマ別に分科会が実施されます。

19日の開会式では、雅楽の演奏と共に「お浄めの舞」が披露された後、諸宗教の祈りが捧げられました。庭野日鑪・世界宗教者平和会議(WCRP/RfP)日本委員会会長は歓迎挨拶の中で、韓国・仁川での第8回ACRP大会で日本人の事務総長が選任され事務局が日本に移設されて以来、より行動志向型のACRPに進化させていくことを最重視し、同事務局とWCRP日本委員会が連携して活動してきたことに言及。「同じアジアに生きる宗教者として、苦悩を分かち合い、問題の本質を見つめ、解決策を見いだしていけるよう、皆さまと手を携えて前進してまいりたい」と述べました。この後、根本信博 ACRP 事務総長が開会の歓迎挨拶。続く開会挨拶では、ディン・シャムスディーン ACRP 実務議長(インドネシア)が、国際社会においてアジア圏が台頭する中で、宗教コミュニティには倫理を確立し、進歩に導いていく役割があると強調。ACRPが対話と議論により戦略的計画を立て、影響力を持って地域の安全保障に貢献していく重要性を指摘しました。また、WCRP/RfP 国際委員会のアッザ・カラム事務総長は新型コロナウイルスの世界的流行や地球環境の危機などに際し、宗教組織の協力は人類生存のために不可欠であると述べ、ACRPの包括的な活動は指導的なモデルになると期待を寄せました。大柴譲治・日本宗教連盟理事長と小泉進次郎・前環境大臣が祝辞を述べました。

この後、和太鼓と津軽三味線を披露する文化パフォーマンスに続き、京都芸術大学教授でNP0法人「Earth Literacy Program」代表の竹村眞一氏が、『人新世時代における人類と地球の共生・共進化』と題して基調講演を行いました。竹村氏は、自身が製作したデジタル地球儀「スフィア」を用いて、地球温暖化や北極の氷の消失、森林火災、干ばつなどシミュレーションによって現在と未来のさまざまな危機を示し、社会が気候変動に対して脆弱になっていると指摘しながら、生活様式を変えることで未来を変えることができると強調。「人工」(アーティフィシャル)の「工」の漢字は「天と地をつなぐ人の営み」を表していると説き、「人間こそが自然をつなぐコーディネーターの役割を果たせる」と述べました。さらに、平和の構築には、人類と他のさまざまな種とのパートナーシップが必要とした上で、宮

沢賢治の「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」との言葉を引用。この「ぜんたい」が表しているのは人間だけではないと語り、仏教の「山川草木悉皆成仏」という考え方が将来のヒントになるとの見識を示しました。

大会中、全体会議では ACRP の「フラッグシップ・プロジェクト」や「新型コロナウイルス感染症とアジアの宗教コミュニティ」などをテーマに議論が深められます。また、「社会の共存と調和のための和解」をテーマにした分科会 3 では、ミャンマー・ラカイン州の問題(いわゆるロヒンギャ難民の問題)と朝鮮半島の平和と和解が取り上げられます。さらに、「アフガニスタンセッション」では、同国での人道支援活動の現状などが報告される予定です。なお、大会に先立つ 17 日には青年事前大会が、18 日には女性事前大会が行われ、活発に意見を交換。内容は、本大会の開会式で報告されました。

これらの議論を踏まえ、最終日には大会宣言文が採択されることになっています。

大会の様子は動画共有サイトでもライブ配信(限定公開)され、同大会ウェブサイトで事前登録することで、どなたでもオブザーバーとして参加することができます。日本語と英語の同時通訳が準備されており、各国から多くの参加者が見込まれています。

第 9 回 ACRP 東京大会の詳細、事前登録は、以下のサイトをご覧ください。

https://reg31.smp.ne.jp/regist/switch/00051c000746Gbtw79/acrp_entry



※写真をご入用の方は、広報担当(三善、木村)までご連絡ください。

以 上

世界宗教者平和会議 (WCRP/Religions for Peace=RfP)

WCRP/RfP は、1970 (昭和 45) 年に 39 カ国から諸宗教の代表者約 300 人が集まり、京都で第 1 回大会を開催したのが始まり。諸宗教の連帯によって平和活動を推進する国際組織として、国連経済社会理事会 (ECOSOC) の諮問資格を有し、1999 (平成 11) 年からは NGO の最高資格である総合協議資格を取得しています。世界大会は当初から数年ごとに、欧州、米国、アフリカ、豪州、中東など世界各地で開催。現在、世界 90 カ国以上にネットワークを有し、諸宗教間の対話・協力活動という特徴を生かして紛争和解や軍縮、難民支援、開発援助、環境保護などの平和活動に取り組んでいます。

日本委員会は、1972 (昭和 47) 年に日本宗教連盟の国際問題委員会を母体として発足し、2012 (平成 24) 年 4 月より公益財団法人として活動を展開しています。

アジア宗教者平和会議 (ACRP/RfP Asia)

ACRP は WCRP の中でもアジア地域を中心とした宗教者のネットワーク。1976 年にシンガポールで開かれた第 1 回大会を機に、WCRP/RfP における初の地域委員会として発足しました。以来、諸宗教による連帯・協力を通して、アジアにおけるさまざまな問題に取り組んできました。5 年から 6 年おきに大会を開催し、2014 年 8 月には韓国・仁川市にて第 8 回大会を開催。その時に採択された宣言文に沿って、近年はアジアや世界の諸課題に向け、これまでの対話・協力を基に「行動する宗教」を志向。現在は、「人身取引防止」「いのちの尊厳教育」「平和構築と和解」「環境問題」「青年リーダー育成」の 5 つの「フラッグシップ・プロジェクト (重点実施事業)」に重点を置き、活動を推進しています。

<お問い合わせ先>

(公財) 世界宗教者平和会議 (WCRP/RfP) 日本委員会 (東京都杉並区和田 2-7-1 普門メディアセンター 3 階)

広報担当: 三善 (携帯 080-2003-2031)、木村 (携帯 090-2408-7117)